

むつみ中学校の生徒が学校林でマツタケ狩り

令和6年10月29日（火）、萩市高佐下の学校林において、萩市立むつみ中学校の1～3年の生徒8名が、地元林業研究グループ「むつみ林業振興会」の指導のもと森林の教室を行いました。

同校では、ふるさとの恵まれた自然に触れ、自然からの恩恵に感謝し、森林・林業の役割や重要性を学ぶとともに、豊かなむつみの森林を次世代に引き継ぐため、年3回、「森林の教室」を行っています。

6月に開催された第1回森林の教室で、森林の役割や松くい虫の被害について勉強し、第2回の今回は、むつみ中学校ならではのマツタケ狩りを通じて、森林に対してより深い興味関心を持つように行われました。

生徒たちは、入山の注意を聞いた後、学校林に分け入り、マツタケを探しました。しばらくすると、「あった」と第一声があがり、次々と「こっちにも」、「あっちにも」とうれしそうな声が響きました。

生徒は林業振興会会員から、マツタケの採り方を丁寧に教えてもらいながら、慎重に収穫していました。

今年は例年になく豊作で78本、6.3キロの収穫があり、関係者全員、森林の恵みを満喫しました。

マツタケは、後日、給食の食材としてふるまわれました。



採り方を教えてもらいながら収穫



収穫後の記念撮影